

<p style="text-align: center;">月報</p>	<p style="text-align: center;">日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p style="text-align: center;">6月号 2013年6月16日</p>
---------------------------------------	---	---

## KGKについて

K.Y

今回はこの紙面をお借りしてKGKについてご案内したいと思います。

### KGKとは?

KGKとは、キリスト者学生会「Kirisuto-sha Gakusei Kai」の頭文字をとった略称です。KGKはキリスト者(=クリスチャン)学生の交わりです。その中心となる活動場所は各学校のキャンパスで、その目的はキリスト者学生の献身と成長、そして学内伝道です。

### KGKスピリット

**派遣意識:**自分はクリスチャンとして、学校、家庭、バイト先、その他あらゆる場所に、神様によって遣わされているのだ、という意識のことです。この遣わされた場所で、クリスチャンとしてどう生きるべきか…この派遣意識こそが、KGK運動の動機となるものです。

### **KGKの三本柱:**

【**学生主体**】KGKは学生主体の運動です。神の召しに応答するのは、他でもない学生自身であるということです。ですから、まず学生自身が、それぞれの学内や生活の場で自分の信仰と向き合い、また励まし合います。学内伝道は現場にいる学生しかできませんから、キリスト者学生たち自身が主体となって活動をしています。

【**超教派**】超教派とは、教会・教派間の協力を意味します。「協教派」と言うこともできます。KGK運動は、それぞれの地域教会に属するキリスト者学生の協力によって進められます。ですから、キリスト者学生それぞれが自分の教会・教派を大切にし、また信仰の根幹で互いに一致していることを大切にします。

【**福音主義**】聖書は神の言葉であると信じ、その信仰の下に一致し、聖書の言葉に従って生きるということです。KGKは神様によって始められた働きです。ですから、神様の言葉を中心とし、聖書のビジョン、聖書的世界観と価値観に立っています。

**全生活を通しての証:**生き方全体を通して証をするということです。学内に神様によって遣わされ、みことばの下に一致した学生たち自身が、協力し合って、一体何をするのか。それは、遣わされた場所でキリスト者として真剣に生きていくということです。その生き方を通してキリストを証し、伝えていきます。

## 活動と組織

KGK活動の基本は学内活動です。私のいた大学では聖書研究会があり、週1回集い、テキストを用いながら聖書を学んでいました。妻の大学の聖書研究会では、聖書の学びの他に、Daily Prayer Meeting (DPM) といって、毎日昼休みに部室で祈禱会をしていました。クリスチャンだけでなく、教会には敷居が高くてなかなか行けない未信者も一緒に集い、そこから教会へとつながり、救われた学生もいました。1年に1回聖書合宿も行っていました。

また、数ヶ月に1回（妻は毎月）学内だけで無く、ブロック（地理的にまとまったいくつかの大学がブロックを形成します。私のいた大学は群馬県にあったので、群馬ブロックに属しています）で集会をもっていました。学内サークルが無い大学の学生も一緒に参加することに意義があったと思います。

また、地区（ブロックが地方ごとに集まって地区を形成します。群馬ブロックは関東地区に属しています）ごとに春期学校（クリスチャン対象）、夏期学校（クリスチャン、ノンクリスチャン問わず）を行い、多くのクリスチャンと過ごすことにより、非常に励まされたことを覚えています。関東地区では、当時、毎月祈りの課題を載せたCATCHという冊子が発行されていましたが、実は、妻は、私が妻と出会う前から、群馬ブロックのこと、また、私の為に祈ってくれていたことを後から知った次第で、神様のお導きを強く感じました。

また、3年に1回、全国集会がもたれます。

いずれにせよ、KGK運動の最前線は各学内です。大きさや人数ではなく、活動の活発さでもなく、遣わされた場所でキリスト者として生きていくことが最も重要なのです。

## 協力者の存在

KGKは主事を初め、多くの方々の協力で成り立っています。主事とは、学生のための専任のスタッフです。東北地区の高木創主事は、日本キリスト改革派仙台教会の会員です。

KGKには、その運動の主体である学生会の他に、KGK卒業生による卒業生会や、卒業生会を含む支援者や地域教会の集まりである協力会、組織としてのキリスト者学生会の責任を負う理事会、そして主事会などが存在します。

（以上、KGKのホームページより一部抜粋）

KGKは、私たち夫婦が学生時代にお世話になっただけでなく、卒業した後も、私たちの信仰生活を支えています。また、私たちが学生時代KGKと一緒に過ごした同世代の学生達の中には、献身に導かれ、牧師・牧師夫人になった方々も多く起こされています。

近年、日本キリスト改革派教会では青少年の減少と牧師の減少が言われています。

皆様も、今後のKGKの働きのために祈り、そして献金によって支えることにより、KGK運動に参加してみませんか？

## 『野菜の時間』

H.S

藤沢市湘南台に移り住んで6年目を迎えています、2009年の夏より、隣町の綾瀬市に30坪ほどの畑を借りて、家庭菜園を楽しんでいます。大抵は、土曜日や日曜日の早朝（早い時は4時半位に家を出て）に畑作業をします。こういうスタイルの人たちを「週末ファーマー」と呼ぶそうで、家庭菜園が今ブームだそうですね。確かに、ホームセンターでは園芸や野菜苗のコーナーが広がり、買い求める人を良く目にするようになりました。

当初は、子ども達が自然に触れる機会にもなると、収穫や土いじりに良く連れ出したものですが、だんだん年齢もあがってきて、スケジュールもなかなか合わなくなり、今は私が「専従」しているよう状態です(笑)。

この趣味の素晴らしさは、まずは新鮮でおいしい野菜を堪能できること。何といっても無農薬、「産地直送」の野菜です。やはり市場のものとはひと味違います。野菜本来の旨味が出ると言いますか、「素材のまま」で食べられる感覚を味わえます。よく言われることですが、「家庭菜園を始めて子どもが野菜を食べるようになった」…これってまさに実感です。

次に、自然との対話。野菜の成長を通じ、野菜が実に自然の営み（天候や季節や気温など）に忠実であるということがわかります。どれほど土が「肥えて」いるか、肥料の塩梅はどうか…といったことも大きく影響します。季節が巡り、その野菜にとって適切な土壌の状態であれば、誰に教えられるでもなく一斉に芽を出し、成長し、花を咲かせ、実を成らせ……。遺伝情報が各野菜に組み込まれているからと言ってしまえばそれまでですが、神様がその全ての情報を種類に応じて組み込まれたと考えれば、そして自然の営みそのものが神様のご支配の中にあると考えれば、小さな野菜たちを通じて、そして自然を通じて、創造主の偉大さ、スケールの大きさが垣間見れる気がするのです。

時に嵐や台風に見舞われ、少なからず被害を受けることも。そして何と言っても無農薬故の病害虫や、強靱な雑草との戦いがあります。自然と向き合うことは実に大変だとこの小さな経験からも感じるのですが、一喜一憂を味わい、収穫の喜びを味わい、そして何より日常の雑事をしばし忘れて気持ちをリフレッシュする貴重なひと時だと感じています。

気がついたらどっぷりと「週末ファーマー」にはまってしまっている自分ですが、これからも野菜たちと、自然と「対話」しながら楽しんでいきたいと思います。

さあ今週末も山々に抱かれて、野菜作りに汗を流すとしましょう！！

## 小さな庭で

く、く

朝、シャッターを開けるとヒイラギの青々とした実が目に飛び込んできます。青い実は清々しく私の心をとらえます。初めて青い実を発見した時は感動しました。また花が実になるとは素敵な変化です。この実が赤くなるとクリスマスです。全部の実がクリスマスを迎えてくれたらとても嬉しいのですが。

狭い庭をウロウロするのが私の最近の日課です。いろいろな発見もあり飽きません。目立たない小さな花もよく見ると完成された美しさです。神様は目立たないからと手抜きなどしていません。聖書に「栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」とあります。花達を見ていると納得できます。

今私が応援しているのは空に向かって伸びている朝顔です。それと雨で倒されたのに起き上がろうと頭をもちあげているセージの花です。頑張っています。植物達は神様から与えられた環境と時間の中で文句も言わずに謙虚に生きる努力をしています。そういう事が私達を惹きつけるのでしょうか。

ある本に「庭は神様に一番近い場所」とありました。私は心がザワザワしている時は庭へ出て草むしりをします。だんだんと心が落ち着いてくるのです。草むしりをする時の姿勢は、ひざを曲げ頭を下げ手を地面につけまるで大地に礼拝している様な恰好なのです。自分を低くし小さくし祈る。そこは神様に近い場所となるのでしょうか。

庭とも言えない小さなスペースや植木鉢の中にも神様は、メッセージを届けて下さいます。

今日も風に乗ってタンポポの綿毛が飛んでいきました。今度はどこで咲くのでしょうか……元気でね。